（仮訳）

安保理公開討論『改革された多国間主義の新たな方向性』における山田賢司外務副大臣ステートメント（２０２２年１２月１４日）

議長、

　まず、本日、この時宜を得た未来志向の議題に関する議論を主導された議長のイニシアティブを称賛いたします。また、アントニオ・グテーレス国連事務総長及びクールシ・チャバ国連総会議長の洞察に満ちた貢献に感謝いたします。

議長、

　安保理常任理事国であるロシアが隣国の一つを侵略したことで、国連の信頼性は危機に瀕しています。国連憲章の起草者たちは、このような事態を決して想定していなかったことでしょう。しかし、これが厳しい現実であり、安保理はまだこれを止めることができていません。

　この危機感が、私を東京からＮＹ訪問へと駆り立てました。我々は、国連に対する信頼を回復しなければなりません。国連全体を強化する必要があります。安保理改革は、その全体像の中で不可欠な要素です。

議長、

　安保理改革に焦点を当てます。私のメッセージはシンプルです。改革は可能であり、達成できます。

　第一に、我々は行動を起こす必要があります。大多数の加盟国が安保理改革は必要であり、重要だと考えているはずで

すが、実際に交渉を始めるとなると、時期尚早だという声も聞かれます。３０年近くも議論しておきながら、いつになったら準備が整うのだろうかと自問せずにはいられません。私は、今がまさにその時だと考えています。今、本当に必要なのは、議論のための議論ではなく、改革に向けた行動です。加盟国が立場の違いを狭めていくために、我々は政府間交渉の場でテキストを机上に置いて直ちに交渉を開始することができるのです。「交渉なくして改革はありえません」。交渉なしに、様々な立場の間で妥協や収束を図ることはできません。我々にはそれができます、そして、始めましょう。

第二に、加盟国はすでに一度、安保理を改革しましたが、私は再びそれができると信じています。1963 年に、総会は安保理非常任理事国の拡大を提案する決議を採択しました。常任理事国二か国が反対票を投じ、二か国が棄権したにもかかわらず、最終的には五か国すべてが総会の意思を尊重して批准しました。総会で重要なのは、総会の意思を集団として形成する各加盟国の一か国一か国なのです。

議長、

国際連合が創設されて以来、世界は劇的に変化しました。加盟国数は 1945 年から４倍に増え、安保理が直面する課題はより複雑で多様化しています。安保理の地域別議題の約半分をアフリカが占めているにもかかわらず、アフリカ地域の常任理事国が存在しないという歴史的不正義を正す必要があります。国連憲章を 77 年前ではなく、今日の現実を反映したものに更新することに躊躇してはなりません。

本年、改革を求める声はますます強くなっています。例年よりはるかに多い約 70 の加盟国が、９月の一般討論演説で

（仮訳）

安保理改革に言及しました。今や常任理事国の過半数が改革を支持しています。私は、より多くのアフリカの指導者が、より熱心に安保理改革を訴えていることを承知しています。来年は前回の改革から 60 周年にあたります。2024 年には「未来サミット」が開催され、2025 年は国連創設 80 周年にあたります。これらの節目は、安保理改革を実現する機会が広く開かれていることを我々に思い起こさせてくれます。

議長、

総会が安保理を改革するために取り組んでいる間、安保理はただ待つ以上に、より多くのことを行うことができます。安保理理事国は、安保理の作業方法を改善することにより、安保理の透明性と効率性を向上させることが可能であり、またそうしなければなりません。日本は、フランス及びメキシコ、米国並びに ACT グループによるものを含む、拒否権行使を抑制する全てのイニシアティブを支持します。日本はまた、リヒテンシュタインが主導した常任理事国の拒否権行使についてより多くの説明責任を求める総会決議 76/262 が採択されたことを歓迎します。日本は、加盟国とともに更なる措置を模索していく意向です。

議長、

最後に、日本は来月から安保理の理事国として、国際的な平和と安全の維持に一層貢献していく決意を表明して、結びとさせていただきます。ありがとうございました。